

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和5年7月25日(火) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外 部 委 員 :13名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者: 4名
配布資料	① 会次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和5年度第1回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 【井坂副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 開会宣言 2. 学園側関係者挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 校長挨拶 3. 委員紹介 【井坂副校長】 各委員の紹介 4. 議長の選出 【井坂副校長】 会則に則り、渡邊委員長(IT Book テクノロジー株式会社)を議長に選出 【渡邊委員長】 議長挨拶 5. 開催要件の確認 【井坂副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員16名、出席13名、委任状0名)) 6. 議事 (1)第一号議案:2022(令和4)年度 第2回学校関係者評価委員会議事録確認 【渡邊委員長】 事務局へ前回議事録の確認指示 【井坂副校長】 前回議事録説明 【渡邊委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認 (2)第二号議案:2022(令和4)年度事業計画進捗状況報告 【渡邊委員長】 事務局へ2022年度の事業計画進捗状況の報告を指示 【井坂副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 【2022(令和4)年度事業計画進捗報告】 ＜はじめに～専門学校を取り巻く状況・2020年の教育改革とその影響～＞ 「高校教育の改革」 「大学入学者選抜の改革(大学入学共通テストの導入)」 「大学教育の改革」 「専門職大学制度」 「高等教育の無償化」 「リカレント教育の充実(リスキリング)」 「コロナ感染症の影響」

「大学全入時代の到来(今年度入試の実態・推薦・総合型選抜の増加)～日本経済新聞より～」

<基本方針>

1. 学生募集「共感される学校づくり」に関する方針
2. 教育活動「自己改善できる学校づくり」に関する方針
 - ①退学率5%以内
 - ②各科カリキュラムの未来化構想
 - ③授業の問題発見・改善手法の開発
 - ④フォローアップ体制の再構築
3. 中期計画テーマ2「DX をワクワクさせる学校づくり」に関する方針
 - ①学び拡充プロジェクト ②学び未来化プロジェクト
 - ③学び深堀プロジェクト ④学び発信化プロジェクト

「学生募集に関する報告『共感される学校づくり』」

— 次年度入学者目標について確認 —

- ⇒見学出願率向上(OC の見直し・質向上)
- ⇒発信強化(RJP・教学マネジメント・SEO 対策等広報連携)
- ⇒高専連携強化(文科省委託授業を含む)
- ⇒本年度入学数確認 要因:大学定員緩和(AO 出願率激減)等

「高専連携に関する報告『共感される学校づくり』」

⇒留学生オンラインコミュニティ運営

- ・コロナ禍で入国できない留学生に向けて情報発信
- ・RJP を中心に学内や在校生の様子を配信

⇒高専連携(教育連携)強化

- ・都立練馬工科高校 ⇒ 体験Ⅰ授業・インターンシップ(3日間)・文科事業
- ・都立蔵前工科高校 ⇒ 情報授業・文科事業
- ・私立堀越高等学校 ⇒ 探求授業・文科事業
- ・都立六郷工科高校 ⇒ 文科事業
- ・都立多摩工業高校 ⇒ 文科事業
- ・埼玉県立新座総合科学高校 ⇒ 情報授業・インターンシップ(6日間)
- ・理科担当教員向けセミナーの実施 ⇒ 都立農芸高校等の生物授業へ
- ・都立中野工科高校 ⇒ 教員研修
- ・県立神奈川工業高等学校 ⇒ 日本初、『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』を設立
～産学連携により7年間の人材育成プログラムを提供～

7/13、神奈川工業高校建設科1年80名を対象に第1回連携授業を清水建設本社にて実施

「教育指標に関する報告『自己改善できる学校づくり』」

- ①目標退学率5%以内 ⇒ 7.38% 3年ぶりに未達成
- ⇒2022年(R04)年度の最終結果
- ・年間出席率:95.5%
- ・課題発生率:9.2%
- ・課題残率 :1.4%

「授業改善に関する報告『自己改善できる学校づくり』」

②学び“未来化プロジェクト”

⇒既存学科カリキュラム更新基本構想立案

⇒10/26 第6回みらい会議にて各科・各WGの発表を共有

⇒ただし、各分野の動向は把握できたものの、各科の方向性を示すに至らず

③チェックバック手法の開発

⇒履修判定試験結果分析からカリキュラム等の問題点の発見

⇒S-P 表分析実装(学生の回答からS-P 表を自動作成するプログラムを開発)

④フォローアップ体制の再構築(スタジオアワー等補講時間の確保)

⇒バイオテクノロジー科スタジオ実施、レポートの提出率等改善

「学習成果に関する報告『自己改善できる学校づくり』」

— 学習成果の見える化 —

ディプロマポリシーの達成度を確認

⇒e ポートフォリオの作成・公開(12月末完成度50%、2月末完成度80%以上)

⇒学習成果発表会の開催(秋季・春季学修成果展示を開催 ⇒ ディプロマポリシーの達成を確認)

「RJP に関する報告『自己改善できる学校づくり』」

建築監督科:①教場整備 ②教材作成 ③10階展示整備 ④OC 用教材のサンプル

建築科 :①校内共用部(教場整備と保全)への提案
②地域建築・都市計画等に関する研究とまとめ
③メディアセンターのリノベーション等調査と提案

インテリア科:①女子学生寮の1室(モデルルーム)をリノベーション

情報処理科:①ラズベリーパイによる IoT コンテンツの開発

IoT+AI 科:IoT および AI 技術による課題解決

DS+AI 科:映画視聴中の感情移入を可視化する Webサービス開発

ゲームプログラミング科:①スマートフォンゲーム開発 ②Windows ネットワークゲーム開発

Web動画クリエイター科:①吉祥寺ハロウィンフェスタ
ポスター・チラシ・ラリー動画・Web サイト制作
②中野区うさごはんカレンダー壁紙制作
③学科別ランディングページ制作(広報本部依頼)

バイオテクノロジー科:①植物関係 ②標本・模型 ③環境整備 ④広報活動を10班に分かれて実施

環境テクノロジー科:①水処理施設新技術調査 ②水生昆虫の標本整理 ③水生生物絵本製作
④体験授業提案 ⑤水の鉄除去

「学習支援等に関する報告『自己改善できる学校づくり』」

高等教育の無償化

⇒2022年度53名(9.1%)が受給(2021年度59名、2020年度44名)

リカレント教育の充実

⇒人生100年時代の学び直し

教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の継続

専門人材育成訓練制度の受入れの継続

2023年度増枠

Web 動画クリエイター科:10名枠、バイオテクノロジー科:10名枠、環境テクノロジー科:10名枠

「就職に関する報告『自己改善できる学校づくり』」

⇒早期内定(8月末内定80%)、優良企業への内定確保

※2022度8月末90%達成

⇒2022年度内定優良企業の紹介(報告資料参照)

「中期計画に関する報告『DX をワクワクさせる学校づくり』」

①学び“拡充プロジェクト”

⇒ IT 系新科2科設立2年次カリキュラム開発および就職先企業の開拓

⇒ 2年次カリキュラム開発・就職企業の開拓進行中

②学び“未来化プロジェクト”

⇒ IT 系・建築系・バイオ環境系既存学科カリキュラム更新基本構想の立案

⇒ 10/26第6回未来会議にて各科・各 WG の発表を共有

⇒ ただし、各分野の動向は把握できたものの、各科の方向性を示すに至らず

③学び“深堀プロジェクト”

⇒ 企業連携等探求型教育事業の開発

⇒ 分野横断型技術者教育事業の開発

⇒ TTC「ダブルメジャーはじまる」スキーム1の提示 ⇒ 具体化の方向性示せず

④学び“発信プロジェクト”

⇒ 企業連携・学科横断研究機関「TTC ラボ」の基本構想の立案

⇒ 企業連携・学科横断ラーニングコモンズ「TTC プラザ」の基本構想の立案

⇒ TTC の「スタートアップはじまる」スキーム2の提示 ⇒ 具体化の方向性示せず

「東京テクニカルカレッジに関する報道等のご紹介」

①【ヤフーニュース等】次世代建築リーダー育成コンソーシアム

⇒「建築リーダー 東京テクニカル」で検索(報告資料巻末参照)

- ②【週刊ダイヤモンド】DX 社会をワクワクさせる意欲的な人材を育成
⇒「ダイヤモンド 東京テクニカル」で検索
- ③【文科省掲載】知る専リレーコラム「学校と社会との一層の隔たりを憂う」
⇒「知る専コラム 東京テクニカル」で検索
- ④【文科省動画】自分らしく社会で活躍するために学び直しを充実させる手厚い支援
⇒「自分らしく社会で 東京テクニカル」で検索
- ⑤【文科省会議】専修学校の質の保証・向上に関する調査研究者会議(第22回)
⇒「質保証 東京テクニカル」で検索

引き続き第三号議案の報告

(3)第三号議案:2023(令和5)年度事業計画報告

【白井校長】

【2023(令和5)年度事業計画報告】

「基本方針. 1『共感される学校づくり』」

1. 入学者数目標310の達成

- ⇒見学者出願率向上(OC 見直し・質向上・OC と SNS の連動)
- ⇒発信強化(SEO 対策、SNS 活用、広報本部との連携強化)

2. 留学生・BE 科募集施策の見直し

- ⇒募集スキーム見直し、内部進学施策の強化、日本語教育強化、OL カフェの継続

2023重点課題1:高専連携の推進 ⇒ 高校との信頼関係を募集に繋げる

「基本方針. 2『共感される学校づくり』」

1. 退学率を5%以内に収める

- ⇒学習意欲の向上
- ⇒学生フォローの強化
- ⇒問題の早期発見・共有・対応

2023重点課題2:フォローアップ体制の再構築 ⇒ 効果的な補講方法を探る

2. フォローアップ体制の再構築

- ⇒スタジオアワー等補講時間の確保
- ⇒上位層への対応・下位層への対応

3. チェックバック手法(資格取得も含む)の開発

- ⇒履修判定試験結果の分析からカリキュラムの問題点の発見
- ⇒問題点を解決するための改善提案 ⇒ コマシラバス改善へ
- ⇒2期・4期、1教員1教科のチェックバックを実施

S-P 表分析の実装(実証実験含む)

- ⇒S-P 表分析プログラムを資格対策の結果分析に活用し、改善を試みる

「基本方針. 3『DX をワクワクさせる学校づくり』」

1) 学び拡充プロジェクト

- ⇒ 新科2科設立

2) 学び未来化プロジェクト

- ⇒ 既存学科のイノベーション

3) 学び深堀プロジェクト

- ⇒ 企業連携等探求型教育事業の開発
- ⇒ 分野横断型技術者教育事業の開発

4) 学び発信プロジェクト

- ⇒ 専門人材未来会議の継続開催
- ⇒ 企業連携学科横断による研究機関「TTC ラボ」の開設
- ⇒ 企業連携学科横断による学修環境・ラーニングコモンズ「TTC プラザ」の開設

(4)第四号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

【渡邊委員長】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

【井坂副校長】

「今回は委員の改選もあり、初めて委員を引き受けて下さった方も多いと思います。特に保護者の方は今回初めてだと思います。いきなり学校全体を理解するのは難しいと思いますので、校長の発表を聞いていただいた内容に関して、また、お子様の学校の様子でも構いません。ご感想をいただければと思います。当校の取組

みに関して思うところを遠慮なくお話しいただければと思います。」

以下、各委員の意見及び学校側の答弁の概要

【岸委員(東中野五丁目小滝町会)】

「とても面白いなと思って聞いておりました。学科横断するということと、自由に研究する時間と場所を確保してあげる事。そういう機会がある専門学校って面白そうと感じる。高校、建設会社、専門学校を繋ぐという話は、高校では生徒が少ない、専門学校は学生が集まりにくいとか、建設業界は人が足りないとか、そのような小さい話ではなく、それが回らないと日本のために困ってしまうという非常に大きな話なので、明るく希望が持てるような話だと思う。別のところでもできる期待もでてくるかなと、今日聞いた中で素晴らしく印象に残ったことです。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「入学も推薦で前倒しになり、就職に関しても前倒しになっている。本当にこれでいいのかみんな思っていると思うが、なかなか元に戻すことが難しいのかなと。学校としては教育の中身を本当にいいものにする、良い人材を育成するというところにフォーカスしていくしかないと思う。学科横断はこの学校の特徴的なところだと思うが、横だけではなく縦の繋がりで教育を高めることができていく学校は伸びが早いのかなと思う。いろいろな企業と産学連携の取組みをしているが、他の学校の学生たちが作ったものと比較するだとか、それに対していろいろな人から評価を受ける機会を加えられると、さらに学生達がそういう場に接することができると、自分たちで勉強していく状況が生まれるかと思う。」

【松本委員(株式会社進研アド)】

「多くの専門学校・大学と話していると、ほぼ必ず話題の中心になるのは18歳人口減少の危機感。先般の日経では63万人いる大学進学者が、2050年には49万人になり14万人減ってしまう。18歳人口は2024年には減るが、2025年～2027年の3年間はほぼ変わらず、2028年以降また減っていく推移になっている。この5年弱の期間にどういった改革を行って2028年以降に備えていけば良いのかという相談が増えている。このことに関しては、長めの目線で取組みを考えていけば良いと思う。学生募集はもちろんだが、退学防止をしっかり考えるのが良いと思う。他の学校の校長との話では定員100%充足させることが重要だが、それと同じくらい預かった学生を一人も辞めさせないことも重要。学生募集と退学防止の両方の観点をしっかり深めていくことが重要だと思う。」

【杉岡委員(株式会社グッドニュース)】

「退学率が気になる。提供させていただいているキャリアマップのサービスで、学生の学習意欲や就業意欲を高めるということから、御校の取組みに貢献させていただきたい。リカレント教育の充実で、専門人材育成訓練制度の受け入れを継続されているところで、学費に関しては本人負担のない補助金という形なのか、どのような形でお金を受け取っているのか聞かせていただきたい。」

【白井校長】

「何種類もあるが、職業実践専門課程を取っていることが前提で教育訓練給付金が入る。厚労省のハローワークからの話で学費の6割を国が負担する。専門人材育成訓練は、ハローワークの中の離職者訓練(公共職業訓練)を専門学校で受けている。一般に18歳中心のクラスの中に社会人の学び直しの職業訓練(2年間)が入ってくる。専門人材育成訓練は、Web動画クリエイター科、環境テクノロジー科、バイオテクノロジー科の3科の申請が通っている。具体的な金額に関しては、事務長からお伝えする。」

【小川事務長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】

「専門人材育成訓練は、東京都の委託訓練の費用は全額東京都が負担。自分の財産になるノートパソコン、教科書、白衣などは自己負担経費となる。」

【杉岡委員(株式会社グッドニュース)】

「受け入れの難しさみたいなのも理解できました。先般ある地方自治体の方と話をしていた時に、50歳代、60歳代の方たちの学び直しとして、60歳、65歳で定年を迎えられる方々も元気で80歳まで仕事したいという方が多い中で、早期離職、退職金を使って専門学校で新たな学び直しのサイクルが作れないかという話を受けた。二点課題があるかと思う。一つは18歳の学生とシニアの方々が一緒に授業を受けることの良し悪し、もう一つはシニアの方々は学費を補助金で、18歳、19歳の方は保護者を含めて本人が(学費を)捻出しているというバランスをどう受け取るかという点が難しい。自治体の方もかなり頭を悩ませている。有効求人倍率が非常にバランスが悪い中で、人手不足の分野・業界に、60歳、70歳の企業でまじめに努力を磨いた方が、建設会社で施工管理職をそのマネジメント力を活かし新たな知識と技術をもって関わるようなことが叶わないかと相談を受けました。」

【島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ、法政大学大学院デザイン工学研究科、インテリア科講師)】

「学校の取組みの感想として、インテリア科の講師も長いことやっているの、昔から比べると大分変わってきていると実感している。ここ数年だけではなく長いスパンで見ると、時代に即して学科の編成や学校創りを行っているという感想がある。ここにきてDXのキーワードが出てきて、DX社会をワクワクさせるというところで、新科2科を他科と繋げていきたいという方向性があるので、社会性のある学校だと思う。DXとかデジタル社会

というのはスピード感が早くて、昨年のこの会議では ChatGPT や生成 AI などあまり聞かれなかったと思うが、すでに巷では賑わっていて、AI が作った画像なども出回っている。ダブルメジャーで2つの学びというところを創っていくと思うので、なるべくスピード感をもってやっていくと良いと思う。ダブルメジャーや TTC ラボを楽しむにしている。この学校の強みは、他の専門学校よりも一校舎の中でコンパクトにいろいろな科が入っていること。学生同士の距離が近く、他科の学生が交わる機会が多いと思う。ダブルメジャーで2つの科とか横断するのはもう少し先になると思うが、他科に知り合いがいるということは卒業後(仕事の交わり)に強みになると思う。」

【佐々委員(特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21)】

「コマシラバスが充実してきて先生、学生が大変だと思う。しかし、現在はコマシラバスの考え方がいろいろな場所に取り入れられていると思う。退学の場合はメンタルの問題も多いのかもしれないが、先生方のほうがメンタルをやられてしまうのではと思う。システムを充実させることはいいが、一方でバリアフリーや多様性に関して今後どのようにバランスを取っていくのかという意味では、この学校は先進的に頑張った分だけ更なる課題を考えていかれるのかなと思う。現在私立の地方の大学(バイオ)も人集めが大変。学校の先生も高校を回ったり、卒業生の様子を伝えたりと広報活動をしている。転職していくのがいいのかわからないが、研究者などは任期制が多く安定して働けない。退学の話があったが、その先で離職しないかということも大事だと思う。学校ができることは、学生と企業との良いマッチングをして送り出すことだと思う。TTC の強みは、現場のことがわかっていて教育ができる場所なので、RJP などを通してお互いをよく理解して企業に送り込むことが離職率を下げることに繋がると思う。神奈川工業高校との7年間のプロジェクトに関しては、ドロップアウトした人を救える、フォローできる体制も考えてほしい。」

【杉山委員(桔梗 ICT パートナーズ株式会社、特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会)】

「DX や TTC ラボなど学校に対しては魅力的なことだが、先生たちはワクワクしているのか。先生たちがワクワクしていないと学生たちはワクワクしづらい。Web 動画クリエイター科でも仕事を受けて実際に学生がクリエイトしたものを納品したが、発注をいただくお金の貰わないでやっている。お金をもらって本当の RJP にすれば良いと思う。アメリカなどでは、大学のラボを法人化して仕事を受け学校と連携して新しいものをつくっている。先生方が法人(会社)をつくって仕事を請け負い、新しいものをつくることによって学生も技術を学べる。チームラボなどから学校が仕事を請け負うような方向をつくり、お金の絡んだ生きた仕事を受けていくことによって、先生の評価が上がり、学生もきらきらするという流れを。先生たちがワクワクするような学校創りを目指してほしい。」

【中山委員(有限会社イブシロン、東京商工会議所)】

「カリキュラムの評価の仕方、仕組みは洗練されており、今後も磨き続けていくのだと思う。DX をワクワクさせる学校づくりは、学科横断をしていきながら学ぶという在り方について、学生の立場からすると、これから広げていくことができる動悸の可能性が、より広がるという意味では大変面白い試みだと思う。数年前は海外の視察があったと思うが、コロナ禍で少し止まってしまったのかと思う。グローバリズムは少子高齢化の反局面みたいなところがあり、子供が少なくなり日本の国力自体が足りなくなっているところを、海外からの(人の)量で止めようという考え方もあるという意味では、将来を担っていく学生たちが世界情勢に対峙することは避けられないと思う。世界情勢と向き合っていく要素が、今後どういう形で取り入れられていくのかということは考えなければならぬと思う。」

【前田委員(バイオテクノロジー科保護者)】

「理系の大学進学を考えていて AO 入試で落ちてしまい、大学に行ったら生物しかできない、バイオしかできない、一般受験でいいのかと考えていた時に、こちらの学校を見学させていただいた。こちらならバイオ全般を学べる、実験の器具も一人一人必ず使える、担任制、5期制というところに魅力を感じ、見学1回で決めました。成績票を見ても、出席日数など細かく見ることででき入って良かったと感じています。この先、自分のやりたいことを見つけて社会に出られたらと思っています。」

【中島委員(Web 動画クリエイター科保護者)】

「娘が Web 動画クリエイターで楽しみながら学習をさせていたでいる。本人もやる気を持って勉強をしている。校長先生からお話があった社会全体的な技術者不足や、専門学校を選ぶ人(生徒)が減少傾向にあることに関して、私の偏見もあると思うが、地方の公立高校の総合的な学科にいる生徒は、高校の先生から「学ぶことが決まっていなかったらとりあえず大学へ行きなさい」と、地方では今だに(大学志向が)色濃く残っている印象がある。長女の時も専門学校ではなく大学へ行っていたほしいと言われた。個人の希望よりも、高校の先生の(生徒を大学へ進学させた時の)評価が根強く残っている印象がある。工業系、情報系の高校に対しての働きかけ(高専連携事業)は素晴らしいと思う。工業系、情報系だけでなく、地方や総合系の興味を持っている生徒たちにも情報を。インターネットなどで(学校の)情報を得る事ができるが、発掘する(学校を見つける)ことが難しいところだと思う。何かしらのきっかけを少しでも、オープンキャンパスだけでなく地方の教育委員会などを含めて働きかけがあれば、全体的に学生も増えると思う。昔はたたき上げで技術者になった人が多かったが、大学偏重時代があったため、現場仕事を選ばなくなった時代が長かった。モノづくりに関して素晴らしいのだということ、こちらの学校から地方に発信出来れば、学生も集まり技術者の育成にも繋がると思う。」

【楡井委員(建築監督科保護者)】

「企業の方々と学校の今後の未来の話などを聞かせていただき、息子がこの学校を選んで良かったと思っている。家が建築家で、私の父と長男がエクステリアの仕事、次女が女子大で住空間デザイン勉強しており、

その流れで息子も収まるところに収まったかなと思っている。息子は今までスポーツに打ち込んでいたが、今までとは違う頑張りがみられる。自宅でも頑張っている姿が見られる。ここで4年間頑張って企業に就職してもらいたいと思っている。」

【澤坂委員(株式会社 Artisan)】

「3つ質問項目があります。1つ目はデータサイエンス+AI 科(以下 Ds)と IoT+AI 科(以下 IoT)がスタートして1年3カ月経ちましたが、現状どうなのかお聞かせいただきたい。」

【白井校長】

「どちらの科も10名程度でのスタートとなりました。IoT は退学者が少ないが、Ds は退学者が多くなっている。学校の授業内容と入学者の学力のミスマッチではないという認識。退学者の中には社会人の方が多く、会社を経営しながらのそのサポートとしてデータサイエンスをやりたいということもあったので、(仕事の方が忙しくなり)辞められた。実際は、学力の問題でついていけなかったということではない。就職に関しては、IoT は大きな企業に内定者が出ているが、IoT をやる部署に配属になるかはわからない。IT人財の就職としては勝ち取れたが、本当にIoT の開発をするかは就職先としては弱かった。Ds は、企業の方が新卒のデータサイエンティストを取るところまでいけていない。入社した企業先で鍛えていただきながらデータサイエンティストになっていくということで、新卒のデータサイエンティストとしての就職は難しい。Python や AI 等新しいところは学べているので、そこでのオファーはいただいている。データサイエンスの中でも分析というところよりも Python が使えるというところで就職となっている。」

【澤坂委員(株式会社 Artisan)】

「それぞれの科で1年生、2年生の人数は何人か？」

【白井校長】

「Ds は1年生5人、2年生3人 IoT は1年生8人、2年生7人が現状です。」

【澤坂委員(株式会社 Artisan)】

「2つ目はe ポートフォリオの活用に関して、昨年から継続していると思いますが、e ポートフォリオの効果でどのくらいオファーがあったのか、数値化しているのか？」

【白井校長】

「細かく数字は拾えていない。科によって進捗の違いがあり、科によって温度差がある。数例ですが、実際にクラウドに自分の学習履歴を上げて、そこから内定をいただいたというのはさほど多くない。そこから全員就職(内定)を得るのはできていない。」

【澤坂委員(株式会社 Artisan)】

「せっかくDs もあるので、RJP の授業で分析してもいいのではないかなと思う。3つ目は学校の宣伝で、直接高校に対してアプローチするのはよく聞かすが、時代に即した SNS や YouTube に広告を出したり、学校の HP をモダンなデザインにしたりなど、どのような Web 広報をしているのか？」

【白井校長】

「EC サイトはこの春全面改定をしました。SNS の発信は各科で行っている。どの学校も学生が発信することが増えてきている。当校も有志の学生をサークルみたいに集めて、そこから各科、学校の話 Instagram などに発信をしている。各科、学校全体でもやり始めている。」

【渡邊委員長】

「挑戦的な取り組みをしている中で退学率が上がっているのは、どうなのだろうかなと思う。ダブルメジャーは、ある程度学習意欲が高い学生たちが、ここまでやったのだからこういうことも身に付けようとか、チャレンジの機会が非常に増えているように思いますし、神奈川工業高等学校の7年間の取組みなどもすごくいいことだと思う。その中で退学率が上がったというのが気になった。4年間学校に行きたくない、普通に2年間で卒業していく学生たちにちゃんとケアができていいるのかなと思った。」

【白井校長】

「すぐお答えが困るところですが、実際、入学者が減ってくると退学率が増えるというのは相関している。入学者が減るとメンタルが弱い学生が増える傾向があり、学校運営が難しくなるところがある。学校としてはお預かりした以上はしっかりとやっていきたいという気持ちで毎年思っていますが、なかなかうまくいかない時がある。募集が悪くなるとそういう傾向が強くなるという相関が出てくる。オープンキャンパスの保護者会では、お預かりした以上は勉強が嫌になってお辞めになる事は絶対に避けていきたいと言っているが、正直難しいところがある。今の学生は叱り慣れてなく、課題制作のプレッシャーに耐えられない学生が増えてきている。本日欠席の三浦委員の前の議事録にもあったが、小学校、中学校で長欠者が増えてきている社会傾向があり、全体として若年層が学校に通いづらい心持になっているというはあるのかなと思う。一つの学校でどこまでやれるのかということも正直あります。東大の退学率は4%。もう少し中身を磨かなければと思っています。細かいところでは数学の補講をやったりしている。メンタルに関しても、専門学校だけの集まりの会議でもいつもその話題は出る。学校によってはカウンセラーの先生を常駐させている。保健室通学等もある。カウンセラーの先生も最後には心療内科での診察を勧める。カウンセラーも考えているが手が出せていない。」

7. 閉会の辞

【渡邊委員長】

「みなさんご意見どうもありがとうございました。現在までの説明をもって評価をしたいと思います。教育的視点からの改善アプローチでありますし、これまでの取り組みを拝見し、テクニカルカレッジらしい改善への取り組みだと思いますが、委員の皆さんはいかがでしょう。」

【全委員】

全員一致で賛同

【渡邊委員長】

「ありがとうございます。昨年度の取り組み及び、今年度の取り組みを適切な活動であると評価したいと思います。会議の方は終了しますが、今後の活動についての改善努力についても計画したものがどのように進捗しているのか、またその取り組みを含めこれからも公開をお願いしたいと思います。スムーズな議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。これにて閉会します。」

【井坂副校長】

「委員の皆様、長い時間ありがとうございました。議長もありがとうございました。本会議を持ちまして本日の学校関係者評価委員会の会議は終了となります。」

【白井校長】

「ありがとうございました。いつもはご意見の後に私の話をさせていただいておりますが、時間も長くなりますので差し控えさせていただきます。いつもたくさんご意見いただきありがとうございます。できないことも多いので、ご指摘ごもっともというところが多いのですが、それを受けて努力してまいりますし、(今後改善したことなど)お伝えしていきます。ちょっとした成長しかないかもしれませんが、またご意見をいただければと思っています。大きな時代の中でやれることやれないことがあります、細かいことをやっているつもりでいます。メールでも構いませんのでアドバイスをいただけるとありがたいです。本日はありがとうございました。」

【井坂副校長】

「本日の会議はこれにて終了となります。次回は12月1日の夕刻を予定しております。是非ご出席いただきご意見いただければと思っています。今後とも当校の教育にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。」

以上

議事録署名人

_____ 印

_____ 印